

7 学習指導

学校教育においては、特色ある教育活動を展開し、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健康やかな体などの「生きる力」をはぐくむことが求められています。

このようなことから、学習指導においては、基礎的な知識・技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切です。

そのためには、体験的・問題解決的な学習の充実を図るとともに、児童生徒の興味・関心を生かし、自ら課題解決ができるような学習指導を進める必要があります。

1 学習指導を進めるに当たって

(1) 学習指導を進める際の教師の心構え

学習指導を進めるに当たっては、次のような心構えで授業に臨むことが大切です。

- 教えることを通して自らも学ぶという姿勢で取り組む。
- 常に新たな気持ちと発想で臨む。
- 授業は学習指導の場であるとともに、生徒指導の場でもあることから、児童生徒の気持ちに寄り添い、一人一人の児童生徒理解に基づいた指導を行う。

(2) 学習指導に対する教師の意識

児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす学習指導を進めるためには、次のような子ども観や指導観、評価観をもつことが大切です。

子ども観

- ・一人一人が多様なよさや可能性をもった存在である。
- ・自分なりの思いや願いをもった主体的な存在である。

指導観

- ・児童生徒の側に立ち、よさや可能性を引き出し、伸ばす。
- ・児童生徒が主体的に学ぶことができる学習活動を授業に位置付ける。

評価観

- ・児童生徒のよさや可能性を共感的にとらえる。
- ・自己実現を支援する。
- ・指導と評価の一体化を図る。

(3) 求められる授業

学習指導においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導の充実が求められます。そのためには、児童生徒の発達段階や能力・適性、興味・関心などを的確にとらえながら、一人一人がよさや可能性を発揮し、主体的に学習に取り組むことのできる授業を工夫することが大切です。

○ 自ら学ぶ意欲を育む

知識・技能を一方的に教え込むような授業ではなく、児童生徒が自ら考え、判断し、表現するなど、進んで学習に取り組む力の育成を重視した指導が大切です。

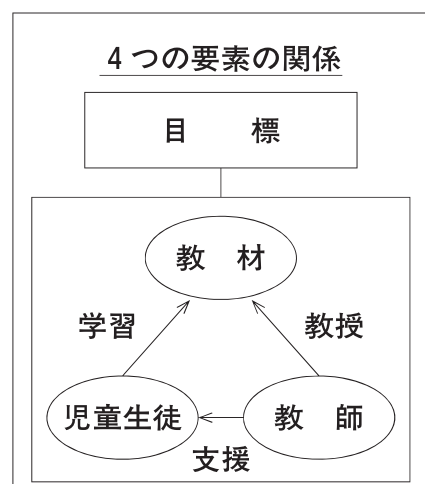
○ 学習の過程を重視する

教師は、児童生徒と共に学び考え、児童生徒の問題解決を支援していくという姿勢をもつことが求められます。知識の量や学習の結果だけでなく、学習の過程を一層重視したり、児童生徒のよさや可能性、進歩の状況を積極的に評価するとともに、児童生徒が互いに取組のよさを認め合う場面を設定するなどの工夫を図ることが大切です。

(4) 学習指導における4つの要素

学習指導は、目標を実現するために、教師が教材を媒介として児童生徒の学習を支援する活動が中心となります。学習指導を進めるに当たっては、児童生徒(学習者)、教師、目標、教材という授業を構成する4つの要素の内容や関連を踏まえることが大切です。

- 児童生徒は、教師の支援のもと、自ら考え、主体的に判断したり、表現したりすることを促す体験的な学習や問題解決的な学習を通して、知識や技能を身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたりします。
- 教師は、設定した目標を達成するため、学習課題を明確にし、児童生徒の学習に必要な情報や資料を提供するなどして、児童生徒自らが問題を解決することができるよう導きます。
- 目標は、学習を通して習得する知識・技能や高めようとする関心・意欲や思考力、判断力、表現力等を示したものです。児童生徒にとっては学習のめあてとなります。
- 教材は、各教科・領域の目標を実現するために活用する素材であり、目標と児童生徒を結び付ける材料です。また、児童生徒の学習意欲を喚起する材料であり、学習する内容そのものでもあります。



(5) 教科書（教科用図書）と補助教材

教科（科目）の主たる教材として使用される**教科書**は、各教科（科目）の目標を達成するため、確実に指導する必要があります。また、児童生徒の能力・適性を踏まえ、効果的に使用することが大切です。

補助教材（教科書以外の教材）は、指導の効果を高めるため、必要に応じて計画的に活用することが大切です。補助教材の使用に当たっては、著作権法（第35、36条等）及び教育基本法（第14、15条）の関係法令に配慮するとともに、市販の教材のみに頼らず、児童生徒の興味・関心や能力など、その実態に即して各学校において創意工夫したものを活用することが大切です。

なお、各学校において教科書と併せて使用する副読本、解説書、学習帳、問題集、練習帳、その他の学習参考書を含む補助教材を採択しようとするときは、北海道教育委員会又は、各市町村教育委員会に届け出る必要があります。

(6) 教科指導の専門性を高める研修

教師には、教科指導、生徒指導、学級経営など、教職一般について円滑に職務を遂行することや、新たな教育課題に適切に対処できる能力が求められており、日ごろの職務を通じて自らの課題を発見し、解決し、成長を遂げていく過程を充実させ、より高い水準の教育を実現していくことが大切です。

教科指導においては、絶えず課題意識をもって授業に取り組むとともに、研修などを通して自らの専門性を高め、指導力の向上に努めることが求められます。

- **校内研修**では、学習指導案の作成の仕方、板書の仕方、発問の仕方、ノート指導や学習規律など、授業の準備から実際の展開に至るまでの授業実践の基礎について研修する。
- **校外研修**では、授業設計や学級経営などの情報を得るとともに、新たな視点から自らの指導を見直し、指導方法等の改善などについて研修する。

教科・科目の目標を踏まえた指導

高等学校においては、教科・科目が多岐にわたっています。同じ教科であっても、科目の目標や指導内容が異なっていることから、それらに応じた指導方法の工夫を図ることが大切です。

教材研究に当たっては、教科・科目の目標を踏まえることはもとより、生徒の側に立ち、生徒がわかる授業を進めることができるよう工夫します。



授業観察・研究視察

充実した学習指導を展開するためには、自分の授業を観察してもらい指導を受けるとともに、他の教師や他の学校の授業を積極的に観察することが大切です。

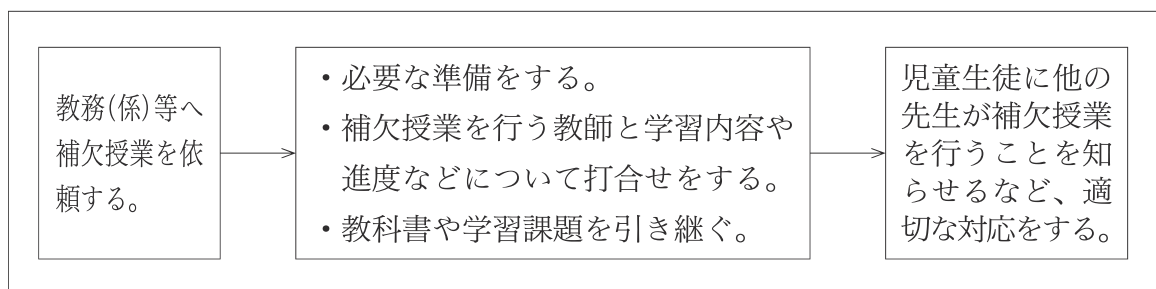
〈授業観察や研究視察の際の視点〉

- 学級（ホームルーム）経営に関して
 - ⇒ 学習規律、担任の児童生徒への働きかけ、環境設営 など
- 学習指導に関して
 - ・ 学習指導案から
 - ⇒ 目標、単元の指導計画、教材分析、指導の手立ての具体化、学習過程、評価の観点や方法 など
 - ・ 授業実践から
 - ⇒ 児童生徒の活動の様子や変容など目標の達成状況、学習形態、教師と児童生徒の信頼関係、個に応じた指導、教師の基本的な指導技術 など
- 学習環境に関して
 - ⇒ 学習のための環境構成、ICTなどの教育機器の活用の様子 など

補 欠 授 業

学習指導は、年間指導計画にしたがって進められるものであり、計画された授業時数を確保することは極めて重要です。しかし、出張や休暇などの事情によって授業を行うことができない場合は、補欠授業を行うことになります。

〈補欠授業の依頼〉



〈補欠授業を行う教師〉

教務（係）等との連携を図りながら補欠授業を行い、授業が終了した後は、指導内容や児童生徒の状況を当該教師へ報告することが大切です。

2 学習指導の計画

(1) 教材研究の意義と観点

児童生徒の学習意欲を高め、充実した学習活動を展開するためには、児童生徒の実態、教材、指導の三つについて、教師が確かな見通しをもって授業設計をするなど、教師の日常における教材研究が極めて大切です。

教材研究の観点	① 児童生徒の実態について ～日常の観察、事前調査から
	○ 既習事項やこれまでの経験、定着の程度を把握する。 ○ 児童生徒のものの見方や考え方、行動などの傾向をとらえる。 ○ 児童生徒一人一人の興味・関心や意欲、特性、学習集団の雰囲気をとらえる。
	② 教材について ～児童生徒の立場に立って
	○ 教材の系統性や配列、教材の構造や展開の仕方を考える。 ○ 教材の構成要素の分析及び基礎的・基本的事項を明確にする。 ○ 目標や児童生徒の実態に応じた教材の精選を図る。 ○ 教材を開発したり、自作したりするなどの工夫をする。
	③ 指導について ～児童生徒に身に付けさせたい力を明確にして
	○ 学校の教育目標や教材の本質などを踏まえ、指導の目標を明確にする。 ○ 一人一人の知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力等を伸ばす学習活動を工夫する。 ・教材提示の方法や順番を考慮する。 ・学習場面に応じた学習形態(一斉学習、グループ学習、個別学習)を工夫する。 ・児童生徒に教えること、考えさせること、気付かせること、表現させることなどの内容を明確にする。 ・教材・教具の効果的な活用を図る。(視聴覚教材は、機器の特性を生かす。) ○ 評価の観点や方法等を明確にし、指導に生かす方法を考える。

(2) 年間指導計画

年間指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標や教育課程の編成方針に基づき、各教科・科目や各学年相互の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすることが大切です。

＜作成の手順＞

- ① 指導の目標を定め、学習内容を選択、配列する。
 - ② 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、学習内容の理解や定着に要する総時間数や配列された学習内容ごとの指導時数を決める。
 - ③ 主な学習活動や学習形態を考える。
 - ④ 各指導の段階における教材・教具や資料を考える。
 - ⑤ 評価の観点と評価規準及び評価方法を考える。
- ※指導後は、児童生徒の定着の状況や指導上の留意事項をメモし、次年度の年間指導計画の作成に活用する。

＜年間指導計画（様式例）＞

月	単元名・目標	時数	主な学習内容	教材・教具等	評価

(3) 単元（題材）の指導計画

単元（題材）の指導計画は、単元（題材）の実際の指導に向けて年間指導計画に盛り込まれた内容をより具体化したものです。児童生徒の実態を踏まえ、教科・科目の系統性や発展性を考慮して、単元（題材）の学習内容を適切に位置付けます。

＜作成の手順＞

- ① 年間指導計画の目標を明確にする。
- ② 観点別学習状況の評価の観点（「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」等）に基づいて、単元（題材）の目標を設定する。
- ③ 児童生徒の実態、活用できる地域の素材、施設などを把握する。
- ④ 単元（題材）の目標に基づいて、中心となる学習内容を明確にする。
 - ・その単元（題材）で児童生徒に身に付けさせる資質・能力を明確にする。
 - ・児童生徒の思考の流れを把握し、学習内容の配列などを工夫する。
 - ・指導時数を配当する。
- ⑤ 単位時間ごとに学習内容を具体化する。
 - ・チーム・ティーチング、体験的な学習、コース別学習などの具体的な指導体制・指導方法を考える。
 - ・指導場面を明確にして評価方法を考える。

(4) 学習指導案（単位時間の指導計画）

学習指導案は、年間指導計画及び単元（題材）の指導計画に基づく、児童生徒の実態に応じた指導を展開するための一単位時間ごとの具体的な計画です。

学習指導案の作成に当たっては、個に応じた指導を具体化し、学習内容が確実に定着するように構成するとともに、学校の課題あるいは研究主題と結び付いた学習活動となるように工夫することが大切です。

学習指導案には、定められた形式はありませんが、一般的には、69ページから70ページにあるような内容について記述します。また、単元（題材）の指導計画を構造的に表したり、板書計画や児童生徒の学習状況、座席表などを記述したりする場合もあります。

<作成の手順>

学習指導案の作成のポイントについて、次のようなものが挙げられます。

- ① 年間指導計画の目標・内容などを学習指導要領で確認するなどして、具体的な文言にする。
- ② 具体化した目標や内容に基づき、中心となる学習活動を考える。
- ③ 前時までの学習内容の定着状況を確認する。
- ④ 児童生徒の反応を予測する中で、どのようなところでつまづくのか、また、それをどのように克服させたらよいのかを検討する。
- ⑤ 上記①～④に基づいて、学習活動の流れと支援の内容や方法について考える。
- ⑥ 教材・教具、資料を準備して、その提示のタイミングと方法を考える。
- ⑦ 学習活動ごとに、個人・ペア・グループなど効果的な学習形態を考える。
- ⑧ 目標や内容に即して、評価規準や評価方法を明確にする。
- ⑨ 板書計画を作成する。
- ⑩ 次の学習への見通しを立てる。

<授業前のシミュレーションの仕方>

学習指導案や教材の準備ができたなら、本時の流れや指導方法について、次のような方法により、必要に応じて内容を選択し、取り組むことが大切です。

- ① 学習指導案に基づき細案を作成し、指示や発問を具体化する。特に、導入や中心発問、本時のまとめについては最も適切な語句を選択する。
- ② 学習活動、特に、作業や話し合い活動に実際に要する時間を想定する。
- ③ 細案や板書計画をもとに一人で模擬授業を行い、板書や作業にかかる時間を確認する。
- ④ ワークシート等に模範解答を実際にかき、設問の妥当性や回答欄の大きさを確認する。
- ⑤ 先輩教師に学習指導案の内容を説明し、児童生徒の反応を予想してもらったり、疑問に思った点を質問してもらったりする。
- ⑥ 同じ学年の教師やT2の教師とともに、模擬授業を行う。
- ⑦ ICTを活用する場合、機器の動作を確認したり、児童生徒の座席から画面やスクリーンの見え方、音量等を確認したりする。

- ⑧ 発問や教材提示に対する児童生徒の反応を確認する。特に、本時の目標を達成することができない児童生徒への手立てを準備する。
- ⑨ 話し合い活動等の言語活動を行う場合、ペアやグループの構成員を確認し、話し合い活動がどのように進むかを予測する。必要であれば適切なグループ構成を考える。

○ 「教材分析」(主に教科書読解)

児童生徒の理解を促すためには、主たる教材である教科書を活用することが大切です。授業の準備を行うに当たって、次の手順で、教科書の分量や内容、記載の順序等を十分に分析します。

- ① 学習指導要領で単元の指導事項を確認する。
- ② 単元の指導計画に照らし合わせて、教科書の分量や記載内容の流れを確認する。
- ③ 児童生徒の思考を想定して、教科書の内容を確認する。
- ④ 単元や一単位時間の流れと、記載されている文章・絵・図・表・グラフ・写真等の位置付けを確認する。
- ⑤ 図表等を提示する際に、実物投影機等で拡大したり、焦点化したりする必要があるかを確認する。
- ⑥ 発展的な教材やコラム等を扱う場面や方法を確認する。
- ⑦ 本時の目標達成に効果的な補助教材等を準備する。
- ⑧ 模擬授業を行い、教科書の効果的な活用方法について、改めて確認する。

○ 「目標と指導と評価の一体化」

授業の準備が整ったら、目標と学習活動と評価が一体となっているかを確認します。教材、発問、教師の働きかけが本時の目標を達成するためのものとなっているかが大切です。

- ① 学習指導要領や単元の指導計画に即して、本時の目標は適切に設定されているかを確認する。
- ② 児童生徒が本時の目標を達成できる学習活動になっているかを確認する。
- ③ 教師の指導の結果、児童生徒が本時の目標を達成できたかを、確実に評価することができる評価規準や評価方法になっているかを確認する。
- ④ 評価の結果、本時の目標を達成することができない児童生徒への手立ては準備されているか。また、補充的な指導の必要性や発展的な課題提示の必要を判断したり、次の学習の指導について、修正を加えたりする計画になっているかを確認する。

国語科学習指導案

ティーム・ティーチングの場合は、主となる教師と副になる教師を記述します。

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）〇校時
児 童 第4学年〇組 〇〇名
指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元名 読んで考えたことを話し合おう（使用する教材名「ごんぎつね」）

2 単元について 「教材について」「児童（生徒）について」「指導の方針について」の3点にわたって記述し、教師の授業構想を明確にします。また、校内や教科の研究とのかかわりについて記述する場合もあります。

3 単元の目標 児童（生徒）の立場に立った表現で記述します。その際、観点別学習状況の評価の観点を考慮して整理します。

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像しながら読んだり、「感想交流会」で感想を発表し合って一人一人の感じ方について、違いがあることに気付いたりすることができる。（指導事項Cウ、オ）

4 単元の評価規準 年間指導計画を基に、単元の評価規準を明記します。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語を読んで、好きなことや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。	① 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。（ウ） ② 物語を読んだ感想を、叙述や自分の経験などと関連付けて発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気付いている。（オ）	① 「漢字仮名交じり文」の表記に気を付けて、文や文章を読んでいる。（イ（イ）） ② 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（イ（ア））

5 言語活動
印象的な場面をとらえ、「読書発表会」を行うこと。（言語活動例ア）

6 指導計画（9時間扱い）

単元	単位時間の目標	○主な学習活動 *部分的な言語活動	■評価規準 □評価方法
1	学習のねらいを確かめ、「感想交流会」に向けた見通しをもつことができる。	○ これまでの学習を振り返り、文学的な文章を読む際の視点について確認する。 ○ 本単元の学習のねらいや「感想交流会」の内容を知り、学習の見通しをもつ。	■物語を読んで、好きなことや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。【関】 □発言、話し合いの様子
2	「『ごんぎつね』を読んで、感想交流会で考えたことを話し合おう」	単元（題材）についての見通しが明確になるようにします。 ○ 「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶ。 ○ 難語句について確認する。 *物語を読み、印象的な場面を選ぶ。	■「漢字仮名交じり文」の表記に気を付けて、文や文章を読んでいる。【言－①】 □音読 評価方法は観察だけではなく、多様で具体的な評価資料を集めるようにすることが大切です。
3 5	場面の移り変わりや叙述に着目し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。	○ 叙述に即して場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などをとらえながら読む。 ・場面と場面を関係付けて読む ・登場人物の行動や会話から人物像を読む ・地の文や行動、会話から、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを読む *場面を選んだ理由を考えながら読む。	■登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。【読－①】 ■言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。【言－②】 □発言、ワークシート

7 本時の学習

(1) 本時の目標と評価規準

目 標	場面の移り変わりや叙述に着目し、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。
評価規準	登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。 【読－①】 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。【言－①】

(2) 本時の展開 (3～5/9)

過程	○主な学習活動 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ ＊留意点	■評価規準 □評価方法 ▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入	○ 前時の学習を振り返り、学習課題を把握する。 ・一番印象的な場面を探して音読したよ。 印象的な場面を選んだ理由を考えながら読もう。 ○ 選んだ場面を発表する。	◇ 印象的な場面を選び、友だちに選んだ理由を添えながら伝えるための学習であることを確認する。 ◇ 様々な場面を選んでいることを、教科書で場面のページを探しながら、全体で確認する。	■ 本時の目標と評価規準を明記し、評価を行う場面が分かるように、本時の展開の右側に記載します。 導入にあまり時間をかけず、本時の学習課題を児童(生徒)に明示します。
展開	○ 選んだ印象的な場面について、これまでの読みを生かして、なぜ、そう感じたのか、理由を考えながら読む。 ・ごんの行動がおもしろくてごんの性格が分かる場面だから印象に残ったよ。 ・兵十がごんのことをどう思っているか、一番気になるところだから選んだよ。 ○ 印象に残った場面とその理由をワークシートにまとめる。 ○ 選んだ印象的な場面について、どんなことに気を付けて読んだか交流する。 ・私は、ごんと兵十の言葉や加助との会話から、ごんと兵十の関係を考えながら読んだよ。 ・ぼくは、ごんの行動を兵十がどう思っているか、想像しながら読んだよ。 本時に身に付けさせたいことを振り返ったり、確かめたりします。教科や内容によっては、練習問題に取り組むことも大切です。	◇ これまで文学的な文章を読むことの学習でどのような読起さ 学習指導案を具体化するため、予想される児童の発言を記載します。 ・登場人物の行動(第1・2学年) ・場面の様子(第1・2学年) ・中心人物の性格や気持ちの変化(第3・4学年) ◇ 選んだ場面以外の叙述にも着目するよう促す。 ◇ 自分が気を付けたところとどのような違いがあるか考えながら交流するよう促す。 本時の目標と正対するまための活動になるように留意します。 全ての児童が本時の目標を達成できる手立てを記載します。	■ 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。 ■ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 □ 発言・ワークシート ▲ 会話や行動を手がかりに、前後の場面を比べて読んだり、場面の移り変わりにともなって変化する中心人物の気持ちについて、想像するよう促す。
終末	○ 交流した内容を踏まえ、もう一度ワークシートを見直す。 ・となりの場面と比べてみよう。 ・ごんと兵十の言葉を集めてみよう。 ・うなぎをぬすんだときとあなの中で考えていたときのごんの気持ちを比べてみよう。	◇ 交流を通し、新たに気付いた印象的な場面を選ぶ理由について、整理し板書する。 ◇ ワークシートに気付いたことを書き加えるよう促す。	

3 学習指導の実践

(1) 学習過程

指導する立場からは指導過程といい、学習する立場からは学習過程といいます。狭義には、単元（題材）の指導計画の展開過程を意味し、さらに狭く、一単位時間の「導入－展開－終末」の過程をいう場合もあります。

適切な学習過程を設定した学習指導を進めるためには、次のことに留意する必要があります。

【授業づくり 3つの基本】

- ① 本時の目標を踏まえた学習課題を設定する。
- ② 目標を実現するためにふさわしい展開をする。
- ③ 目標の実現の状況を評価し、次の指導に生かす。

【基本的な1単位時間の授業展開例とチェックポイント】

過程	教師の働きかけ	チェックポイント
導入	■本時の課題をわかりやすく示す。 ○本時の課題を板書する。 ○課題解決の見通しをもたせる。	基本① ☐ 課題は本時の目標に合っていますか？ ☐ 児童生徒が本時の課題を意識できるよう見やすく板書していますか？
展開	■目標を実現するために、 ○読む、書く、話す、聞く ○一人で考えたり、発表したりする ○話し合いをする などの学習活動を適切に位置付ける。	基本② ☐ 学習活動の意図が明確ですか？ ☐ 考えを広げすぎて、収束することが難しくなっていないですか？
終末	■課題に正対するまとめをする。 ○本時のまとめを板書する。 ■学習内容の定着状況を確認、確実に定着させる。 ○本時の学習内容に応じた問題を繰り返し行う。 ○補充的、発展的な問題を行う。	基本③ ☐ まとめは本時の課題に合っていますか？ ☐ 目標の実現の状況を評価していますか？ ☐ 評価を踏まえ、定着を図る指導をしていますか？

授業を支える5つの確認

- ① 返事や発言、聞く姿勢、ノートの書き方など学習規律を確立しましょう。
- ② 児童生徒一人一人に目を配りましょう。
- ③ 掲示物を整え、落ち着いた教室環境にしましょう。
- ④ 辞書や学習資料をそろえましょう。
- ⑤ 授業の開始と終了の時刻を守りましょう。

(2) 学習形態（ペア・グループ学習等）の工夫

児童生徒一人一人の特性等に応じた指導を行うためには、授業の目的に合わせて、効果的な学習形態を工夫しながら指導に当たることが必要となります。そのためには、学習の目的や児童生徒の実態に応じて、一斉学習やペア・グループ学習、個別学習などを組み合わせることが大切です。

学習形態を工夫することにより、個の学習を成立させたり、深めさせたりするとともに、互いに学び合い、高め合う学習が期待できます。

▶ 学習形態の種類

学習形態は、次のように類別することができます。

種 類	特 徴	配 慮 事 項
一斉学習	- 共通の課題や問題点を意識付け、共通の知識や技能を身に付ける。 - 多様な考えの交流により、質の高い考えや見方に達する。	- 一人一人の習熟の程度、学習の速度などに配慮する。 - つまずきや解決方法の特徴など個人の学習状況を把握し、次の学習に生かす。
ペア・グループ学習	- ペアやグループなどの小集団の話しやすい雰囲気積極的に発言することができる。 - 交流により、新しい考えを生み出したり、自分の考えを明らかにしたりする。	- 活動内容や発達の段階に応じて人数を調整する。 - 一部の児童生徒の意見のみが強調されないように配慮する。 - 他のグループの話合いや研究結果などを共有化するようにする。
個別学習	一人一人の能力や適性、興味・関心等の違いに応じた学習により、高い学習効果が期待できる。	- 適度に対話や交流の場面を設ける。 - 一人一人に応じて適切に指導する。

(3) ティーム・ティーチング

児童生徒の興味・関心を生かしたり、学習の仕方の特性などに応じたりするなど個に応じた指導を一層推進するためには、複数の教員によるティーム・ティーチングが有効です。そのためには児童生徒の側に立ち、学習集団を固定することなく弾力的に編成するとともに、教師間の分担や指導の意図を明確にすることが大切です。

ティーム・ティーチングは、指導計画や学習指導案及び教材・教具の作成などの段階から始まります。教師間の人間関係や信頼関係がティーム・ティーチングを支える基盤となります。

(4) 習熟度別指導

児童生徒一人一人に学習内容を確実に定着させるために、個に応じた指導方法や指導体制を工夫改善することが大切です。その一つとして、児童生徒の習熟の程度に応じた指導を取り入れることが考えられます。

習熟度別指導は、各教科等の授業において、例えば、1つの学級を習熟の程度に応じて2つのグループに分けたり、2つの学級を3つのグループに分けたりして授業を行う形態・方法です。習熟の程度に応じた指導を行うことにより、児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行うことが可能となり、指導の効果を高めることが期待できます。

ポイント

【実施する時期や内容】

- 単元や1単位時間のいずれの指導過程においても、多くの児童生徒につまずきが生じると考えられる学習内容を指導するときに習熟度別指導を行うことが効果的です。

【期待できる効果】

- 児童生徒の「もっと分かるようになりたい」という思いや、保護者の「児童生徒をもっと伸ばしてほしい」という願いに応えることができます。
- 学習集団の学習内容に応じた教材・教具や進度で学習活動を行いやすく、個に応じた指導の観点から大きな学習効果を期待できます。
- グループで学習活動を行うなど、児童生徒が主体的に行う学習活動を設定しやすくなります。
- 児童生徒自身が自分に合った学習コースを選択することで、児童生徒の学習目標に対する自己評価の能力を高めることができます。

〈教師の手立て〉

◎ 児童生徒による自己評価やガイダンスを行い、学習コースを児童生徒が適切に選ぶことができますようにします。

◎ 複数の学習コースを設定し、きめ細かな指導を行います。

◎ 一人一人の習熟の程度に応じた指導を行います。

〈児童生徒の声〉

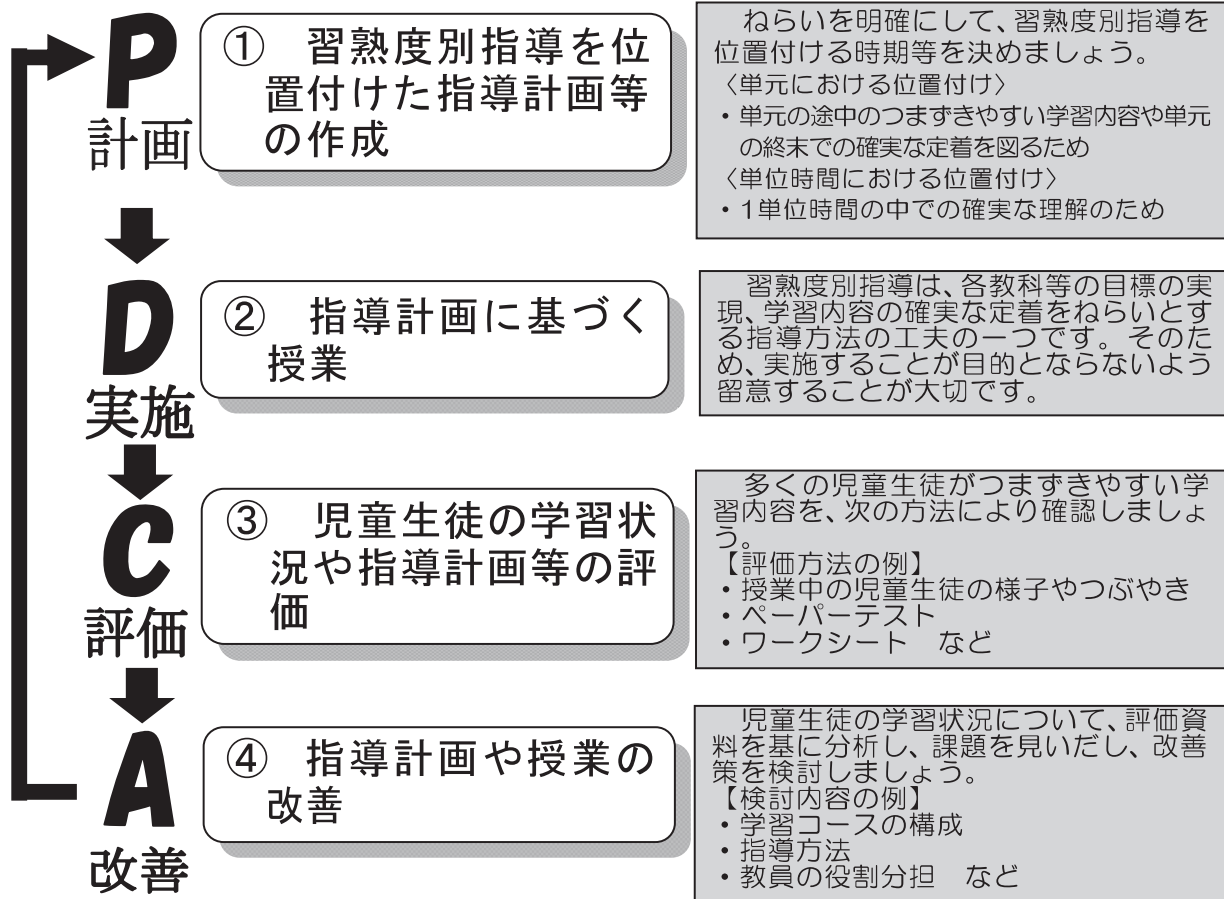
○ できそうな問題や学習課題を自分で選べるのでやる気ができます。

○ 少人数なので、先生に質問しやすいです。

○ 少し難しい問題にも、じっくり挑戦することができます。

習熟度別指導の進め方

習熟別指導は、一人の教師だけで進めるものではありません。マネジメントサイクルを生かして、全ての教師が協力して推進するとともに、児童生徒の学力や学習状況、目標の到達状況に応じて、常に指導の改善充実を図る必要があります。



習熟度別指導で工夫すること

- 児童生徒が主体的に学習コースを選択できるようにするための工夫
 →単元の導入で指導計画を示したり、十分なガイダンスを行ったりして、児童生徒に学習の見通しをもたせます。また、レディネステストや、これまでの自己評価やテストなどを活用し、児童生徒の学習状況の把握に努めます。
- 学習評価を行うための工夫
 →学習コースが異なっても目標や評価規準は変わりません。身に付ける力を全ての児童生徒に確実に身に付けられるように指導しましょう。また、一斉授業より、児童生徒の人数が少なくなるので、よりきめ細かに学習状況を把握し、指導に生かすようにしましょう。
- 保護者の理解を得るための工夫
 →ねらいについて全ての教師で、共通理解を図りましょう。また、学校だよりや懇談会、家庭訪問などを活用し、当該学年だけではなく、全学年の保護者に説明するようにしましょう。

(保護者に伝える内容)

- ・導入する理由
- ・期待される効果
- ・指導内容、指導方法の工夫の具体
- ・導入後の児童生徒の声 など